

梳毛糸と紡毛糸

毛織物で使用される毛糸には、それぞれに特徴を持つ梳毛糸と紡毛糸があり、梳毛糸を使った織物を梳毛織物、紡毛糸を使った織物を紡毛織物と呼ぶ。

〔梳毛糸と紡毛糸〕

■ 梳毛糸

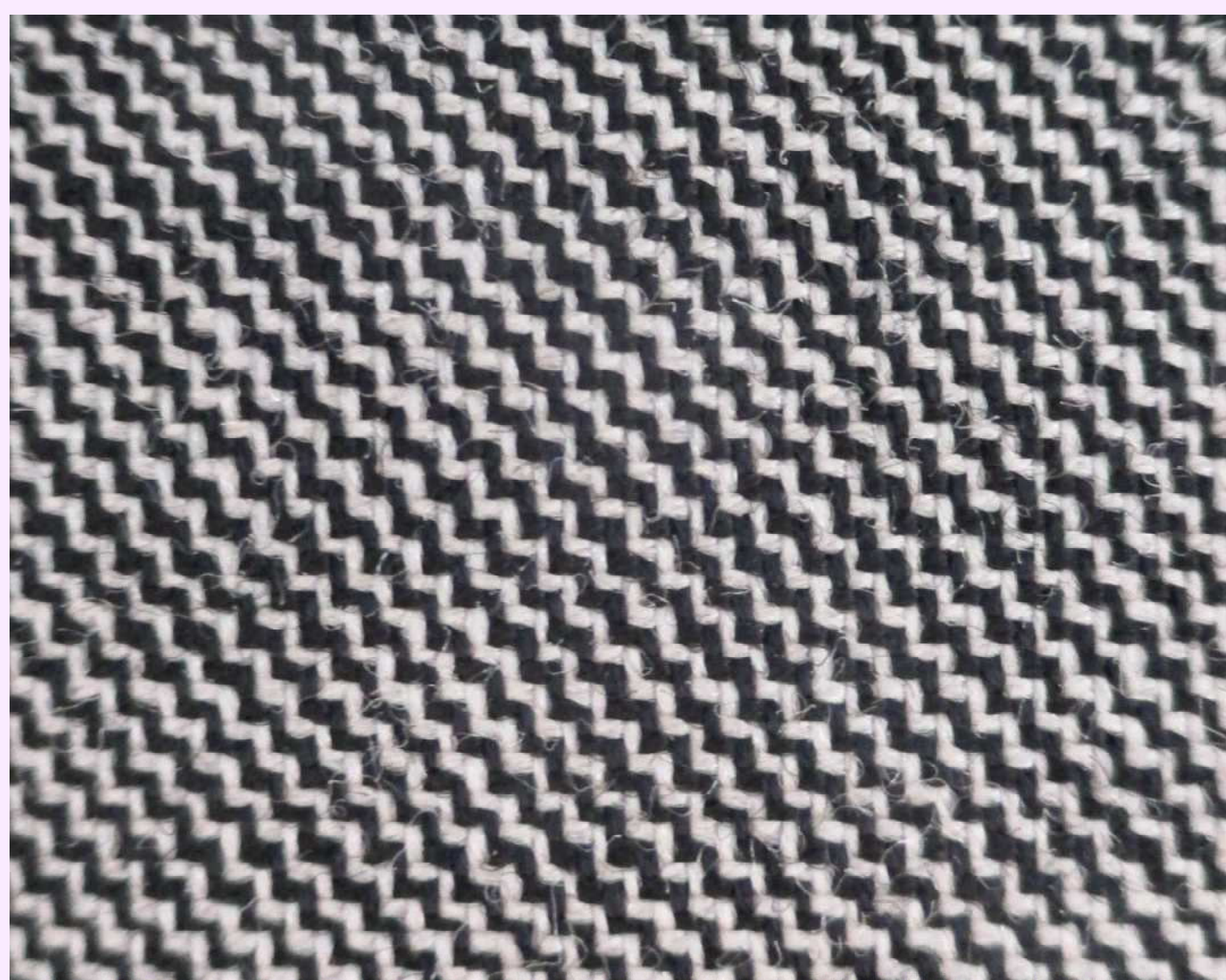
長い羊毛繊維(50mm以上)を一本一本平行になるよう、短繊維・來雜物(きょうざつぶつ)を取り除き、何度も梳いて細い粗糸をつくり、その粗糸を引き伸ばし、撚(よ)りを掛けて、単糸にしたものが梳毛糸である。

特徴は、毛羽が少なく滑らか、斑がなく光澤があり、細く出来る。

梳毛織物には、ギャバジン、サージ、トロピカル、シャーク・スキンなどがある。



トロピカル



シャーク・スキン

■ 紡毛糸

紡毛糸は梳毛糸よりも短い羊毛繊維(25mm程度)で紡績した糸である。羊毛以外に回収羊毛などを原料とすることがある。紡毛糸は、羊毛繊維を引き延ばし、平行に引きそろえることなく相互に交差した状態で糸にしたものである。紡毛糸は、空気を多く含み、ふくらみのある、柔らかな糸である。紡毛織物は、縮絨(しゆくじゆう)し表面を起毛することが特徴である。

紡毛織物には、ツイード、メルトン、フラノ、ベロア、サキソニー(サクソニー)などがある。



ホームスパン



サキソニー

写真撮影：野村千春

協力：中外国島株式会社